

5章：国・算・理・社どれからする？

国・算・理・社どの教科が中学受験にとって大切かを前号では書きましたが、今回はどの教科から取り組むかについての考えを記したいと思います。わが家の答えは、子どもが好きな教科からです。本来は、国語・算数の配点が高い教科を優先的に取り組むべきなのでしょうが、苦手なものを先に無理やりやっていくことの功罪もあるので、次男の場合は好きな理科から取り組むようにしました。理由は、勉強が嫌いにならないように。皆さんも経験があると思いますが、例えば掃除をしないといけないと思っはいるけど、なかなか重い腰が上がらない時に、直ぐに片付くあるいは直ぐ目の前にある何かを少し整理し始めると、何故かやる気が出てきて結局、目的の掃除が思いのほか軽い気持ちであったという間に終わってしまった。分かります？例えはさておき、この方法はそれぞれの子どもの性格にもよると思うので、一概には言え

ませんが、日頃の食事のとり方がひとつの参考になると思います。

どういうことかと言うと、『食べることは生きること』と水木しげる先生が言われているように、食事の仕方はその人の人となり、つまり人間性・性格が出ます。子どもと食事をしていて、好きなものばかり先に食べて後から苦手なものを渋々食べる子。苦手なものを栄養バランスのことも考えて（親が伝えて理解して）無理のない量をきちんと食べる子。嫌いなものは全く食べない子。何でも美味しい美味しいと言ってパクパク食べる子。子どもに限らず、大人でも食の趣向は人それぞれですよ。そう言った、子どもの性格を考慮して、

～抜粋版です～

全文読んでみたいと思われた方は完成版を小冊子として送付させていただきますので、

メールにてお問合せください。